

福井県医師会

だより

第581号 平成21年(2009)11月



常寂光寺の紅葉 福井市 吉村 信

表紙写真説明：常寂光寺の紅葉

福井市 吉村 信

その美しさから、古来、多くの詩歌に詠われた紅葉の嵐山を、これ以上望む可くも無いと言ってよい晴天の日に訪れることが出来た。空は飽く迄も青く、空気は清澄。燦々と降り注ぐ太陽の光に紅葉は燃え、樹下は宛ら紅の霞さやがの中くれないを行くが如しであった。

ガレ作か紅葉隧道果てし無し

醫 縫 録

— 雑 感 —

福井第一医師会長 山 本 誠



平成21年4月より福山公基先生のあとを継いで福井第一医師会の会長をさせて頂いております。県医師会には平成11年から10年間、最初の2期は勤務医担当、その後の3期6年は医事紛争担当を仰せつかり、色々勉強させて頂きました。特に医事紛争担当時は患者・家族の意向を尊重した形でお会いしますので、通常は県医師会館か、福井市内の患者宅ですが、時に北は石川県加賀市、南は敦賀市まで五十嵐事務局長と共に足を延ばしたこともあります。大概是相方の都合もあって、早く夕頃か、多くは夜にアポイントを取りますので病院の仕事が一段落してから出かければ良いことになり、この点は日中に時間を割かれる他の担当理事より恵まれていたと言えます。しかし、こんなこともありました。ある年の担当関連会議が日本医師会館で予定されていた日のことですが、前日からの大雪でJRのダイヤは大幅に乱れ、福井駅にはまともに列車が入って来ない事態に至っていました。ようやく入って来た列車は5～6時間遅れの夜行列車です。駅員さんのサジェスチョンで飛び乗りましたが、寝台列車ですから座る所がありません。また動いている時間より停車している時間が長く、敦賀を出る頃には、既に会議開始時刻近くになっており、もうこれは絶対間に合わないどころか、帰る列車もない一大事です。人いきれでムンムンとする中で、とにかく米原まで行くしかなく、訳の解らぬ覚悟を決めたら、何故か落ち着いた。途中、早朝北回りに賭けた局長と連絡がつき、局長は間に合いそうとのことでホッとしたが、降雪量の多い雪国経由が早く着いて、どう見ても有利と思われる米原経由がこの有様では納得がいかなかった。ついでにもう一つ。結局米原でUターンして福井に戻って来たのは日も暮れた後であったと記憶しているが、いわゆる日本医師会(日医)は出張費は会議に出席してはじめて旅費・出費が日医より県医師会に支払われるので、参加記録のない者には当然手当ては出ないことになるのだそうで、いつもより早起きして疲労困憊したこの一日は一体全体何だったの?と自問自答。まあ減多にできない面白い経験をさせて

もらったと前向きに捉えておいたら、後遺症はなかった。また、紛争の中身も、明らかに医療側の処置・対応の不適切さに起因するもの、患者側の過度のリアクションに基づくものや、後医の慎重さを欠いた言葉(これは一度インプットされたら、後の説明は頭に入らず、もう絶対に消去不能となります)を唯一の拠り所として迎ってくるものなどがありますが、いずれもお互いの気持ちにズレが生じているという共通項が存在することが多いのは周知のとおりです。これらの事案を日医の医賠責に上申し、過失有りとの判定がなされれば同時に金額の提示が内容にされます。この範囲内で解決を図ってくれと言う訳です。過失無しであれば勿論ゼロ回答ですから、患者・家族との交渉がなかなか進展しないことも生じてきます。事案の上申しに際しては意見書というものを付けなければなりません。これまで当方の依頼に対し、快諾して頂きました各先生方には本紙面を借りて御礼申し上げます。

さて、冒頭記しましたとおり、本年4月より小所帯の医師会長に就任しましたが、年度初めということもあるのでしょうか、行政との種々契約書の取り交わしとその説明や、連日届く文書、案内状、FAX等とその処理など、不慣れであることも加重して想像を超えた忙しさに前会長のご苦労が身に沁みて感じられた。7月に入ってさすがに資料の洪水は治まってきましたが、時には読み切るのに数日はかかるかと思われる膨大な資料もあり、各郡市医師会では如何様に対処し、各会員への周知徹底の方策を講じておいでなのかご教示願いたいと思うと同時に、紙ベースの資料のリソースを鑑み、こんなに莫大な消費を目の当たりにして、ふと「月面より眺めた青い地球」の写真が浮かんできた。陳腐な言い回しではあるが、この「かけがえのない地球」を大切にしなければ!と想いはあらぬ方向に飛翔してしまっ

平成21年8月